

# 天皇陛下御即位記念

## 第39回 全国豊かな海づくり大会・あきた大会

### 「海づくり つながる未来 豊かな地域」をテーマに 令和元年9月7日、8日に秋田県で開催

#### 一. 大会概要

新しい令和の時代の幕開けに、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、「天皇陛下御即位記念 第39回 全国豊かな海づくり大会・あきた大会」が、令和元年9月7日（土）、8日（日）に秋田県で開催されました。

秋田県は、県土の7割を森林が占めており、ブナの原生林が広がる世界遺産白神山地や日本三大樹氷の一つの森吉山、さらには日本三大美林の一つ秋田杉の産地であるなど、豊かで美しい森に恵まれております。この美しい森で育まれた清流は、河川となって肥沃な耕地を潤し、日本海に注がれて海の恵みを豊かにし、約150種類の魚介が、四季折々で水揚げされております。

本県では、雪深い冬の期間が長く、食品を保存する必要があったことから、味噌や醤油、漬物、清酒、納豆、さらには、海の恵みを活用したしょっつるや飯ずしなど幅広く豊かな発酵食文化が発展してきました。

また、奈良時代に築かれた秋田城は、北海道や大陸の渤海国との交易・交流の拠点として重要な役割を果たしたと考えられており、江戸時代には、北前船の寄港地として、上方の経済と文化が行き交い、流通や人々の交流が活発に行われました。

こうした風土が、重要無形民俗文化財の件数が日本一になるほど様々な祭りや行事、さらには秋田民謡など独自の郷土芸能を育んできました。

今大会は、「海づくり つながる未来 豊かな地域」をテーマに、本県の有する豊かな森林や食文化、郷土芸能などを組み合わせて開催され、豊かな海は豊かな森が育むということと、豊かな海を守り未来へつなげる、これが秋田だということを全国に広く発信することができ、豊かな海づくり

を推進するための大きな契機となりました。

○主な行事の日程と参加人数

●式典行事 9月8日（日）午前

場所：秋田県立武道館（秋田市）

参加人員：771人

●海上歓迎・放流行事 9月8日（日）午後

場所：秋田港飯島地区（秋田市）

参加人員：364人

●関連行事 9月7日（土）、8日（日）

場所：道の駅あきた港（秋田市）ほか  
県内4カ所

参加人員：52千人

#### 二. 式典行事

式典行事では、ナビゲーターに壇蜜さんと3人の高校生を迎え、劇団わらび座の栗城宏氏が脚本・演出を担当しました。

##### 1 プロローグ

プロローグでは、なまはげ太鼓の演奏から始まり、暖流と寒流、伏流水が育む秋田の豊かな海の紹介、奈良、平安時代から江戸時代にかけての秋田の人と海との関わりや、そこで育まれた祭りや魚食文化について、歌や踊りでミュージカル風に表現しました。

##### 2 式典

式典は、開会に先立ち、秋田太陽幼稚園・ベビー園の先導、県立男鹿海洋高等学校の旗手団により大会旗が入場し、幕を開けました。

加賀谷弘秋田県漁業協同組合代表理事組合長の開会のことば、大島理森全国豊かな海づくり大会会長（衆議院議長）と佐竹敬久秋田県知事の主催者あいさつ、穂積志秋田市長の歓迎のことばが述べられました。

天皇陛下からは「豊かな海の環境を保全すると



ともに、水産資源を保護・管理し、海の恵みと美しさを次世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた大切な使命であると考えます。」とおことばをいただきました（全文は別掲）。



「おことば」

功績団体及び作品コンクール受賞者代表の表彰、作文コンクールの小学校低学年の部で最優秀賞を受賞した小林桜和さん（秋田県八峰町立八森小3年）による「海とわたしの家族」の作文朗読に続き、天皇后両陛下から漁業関係者の西方強さん（ハタハタ）、湊屋啓二さん（サクラマス）、齊藤一成さん（エゾアワビ）、三浦幹夫さん（ワカメ）へお手渡しいただきました。

そして県内若手漁業者の佐藤栄治郎・未来夫妻、伊藤徳洋・歩夫妻、小林優大・雅子夫妻が、豊かな海を将来に引き継いでいく決意を「海づくりメッセージ」として力強く表明し、ベテラン漁業者の杉本貢秋田県漁業協同組合理事が、激励しました。

岸宏豊かな海づくり大会推進委員会会長（全国漁業協同組合連合会代表理事長）が読み上げた大会決議を満場の拍手で採択し、大会旗を佐竹知事から次期開催県の村井嘉浩宮城県知事に引継ぎ、加藤鉦一県議会議長の閉会のことばで式典は閉幕しました。

### 3 エピローグ

秋田の海の伝統を継承し、未来に繋いでいく気持ちを持ち、秋田の海にちなんだ民謡・踊り・歌曲で伝えました。

「ユネスコ無形文化遺産」に登録されました、「土崎神明社祭の曳山行事」の港ばやしから始まり、北前船の船乗りたちによって伝わったと言われている「秋田船方節」と「本荘追分」、さらには、秋田市出身の劇作家である金子洋文が、土崎港に

立って海や漁師をイメージして作った「秋田港の唄」が披露されました。

そしてフィナーレは、秋田県の県魚であるハタハタをモチーフに、秋田県内に溢れる魅力を余すところなく伝える歌「秋田ハタハタロック&サンバ」で盛大に幕を閉じました。

また、式典行事終了後、昼食会場の県立スケート場で竿燈が披露され、参加された方に竿燈とのふれあいを楽しんでいただきました。

### 三. 海上歓迎・放流行事

天皇后両陛下は、台風15号の接近により、予定を早めて帰京され、海上歓迎・放流行事への御出席は取りやめになりましたが、大島大会会長はじめ全国からの漁業関係者等の参加の下、行事は開催されました。

最初に、漁船等のパレードにより本県の代表的な漁法を紹介しました。

県漁業調査指導船「千秋丸」が沖合に停泊し、指揮を執り、次の漁船と官公庁船がパレードを行い、その後マダイとトラフグの稚魚の放流を行いました。

- (1) 県漁業取締船くぼた
- (2) 第百十八兼丸（底びき網漁業）  
県漁協天王支所所属
- (3) 第三天龍丸（定置網漁業）  
県漁協天王支所所属
- (4) 新洋丸（さし網漁業）  
県漁協天王支所所属
- (5) 第2文丸（はえなわ漁業）  
県漁協天王支所所属
- (6) 男鹿海洋高等学校実習船 NAMAHAIGE



「海上歓迎・放流行事」

### 四. 関連行事

関連行事は、道の駅あきた港、JR 男鹿駅およ



び道の駅おが、にかほ市観光拠点センター「にかほっと」、県漁協北部総括支所・八森観光市、秋田駅周辺の5カ所で開催され、式典行事・海上歓迎・放流行事の映像中継のほか、様々なイベントが開催されました。

### 1 豊かな海づくりフェスタ in あきた

#### ～道の駅あきた港～

「魚」にかかわるイベントを中心に人気者の「さかなクン」のトークショーや地魚バーベキュー、おでかけ水族館、アユのつかみどり体験、ハタハタの稚魚やあきたの豊かな海のパネル展示などを行いました。

当会場が、海上歓迎・放流行事の昼食会場でもあり、参加者の方も楽しんでいただきました。

また、隣接する秋田県漁協では地魚の直売会を開催しました。

### 2 男鹿市会場（男鹿グルメマーケット2019）

#### ～JR男鹿駅および道の駅おが～

海鮮バーベキュー、地魚や地元の農産物の直売、マグロの解体ショー、鍋の振る舞いなどを行いました。

### 3 にかほ市会場（にかほグルメまつり）

#### ～にかほ市観光拠点センター「にかほっと」～

海鮮バーベキューのほか、秋田由利牛や地魚、地元の農産物の直売などを行いました。

### 4 八峰町会場（豊かな海の産直まつり）

#### ～県漁協北部支所・八森観光市～

海の幸バーベキュー、漁船乗船体験、競り体験、漁協施設視察、地魚や地元の農産物の直売などを行いました。

### 5 秋田駅周辺会場

#### (1) 秋田拠点センターアルヴェ会場

アルヴェでは、学術系のイベントが開催されました。

#### ① 海洋教育フォーラム in 秋田（9月7日）

「海の研究最前線～海の未来、担うは秋田の私たち～」と題して、中高生向けに海洋ごみ問題や海中ロボット、南極海の生態系などについて、環境省や東京大学、東京海洋大学などの研究者等による講演を行いました。

#### ② 海と地球を学ぼう in 秋田

「しんかい6500」などで海洋調査などを実施している海洋研究開発機構（JAMSTEC）が秋田大学鉱業博物館と連携し、海と地球や秋田と深海の関わり、海の問題などについて、写真や映像等を使った展示を行いました。

JAMSTECの展示は秋田で初開催です。また、隣接するNHK秋田放送局の大型スクリーンでは、NHKとJAMSTECが制作した深海等の番組が放映されました。

#### (2) JR秋田駅東西連絡自由通路会場

##### ワンダフルバザールあきた散歩

県内各地の事業者が一堂に会して旬の農林水産物や加工品、お菓子など秋田ではの商品を販売しました。

#### (3) アゴラ広場会場

##### 軽トラガーデンコンテスト2019

アゴラ広場では、軽トラックの荷台に造られた庭園のコンテストが開催されました。

また、竿燈も披露されました。

#### (4) JR秋田駅西口大屋根下会場

##### まるごと秋田・男鹿・潟上市（いち）

秋田、男鹿、潟上の3市が自慢の地場産品や加工品の飲食物販を行ったほか、式典行事と海上歓迎・放流行事の映像中継を行いました。

## 五. あきた大会で特に力をいれたこと

### 1 本県の木材加工技術を活用

「豊かな海は豊かな森が育む」をコンセプトに、いにしえの時代から現代までの本県で培われた木材加工技術を随所に活用することで、豊かな森の恵みが稚魚を守り、育てていることと、次世代への豊かな海の継承を願う気持ちを表しました。

#### (1) 海上歓迎・放流行事会場

御放流所は、日本一高い天然秋田杉を有する能代市二ツ井町で伐採した秋田杉を挽いた桁目材を中心に、側面の一部に板目材、床面には桁目の集成材を用いました。また3本ある放流樋の支柱には秋田県立大学が開発した「円筒LVL」を活用しました。



「御放流所」

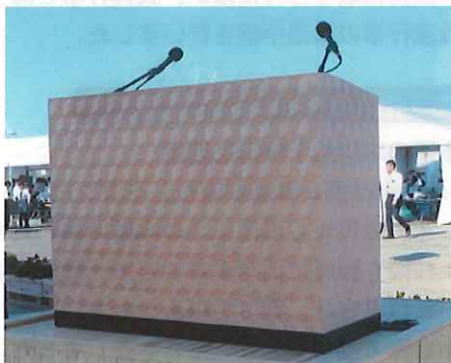


御放流容器は、アケビ蔓（つる）とクルミ樹皮を活用した「かご」の技術を活用し、底面と側面をアケビ蔓、側面と持ち手をクルミ樹皮で装飾したオリジナルの容器を製作しました。



「御放流容器」

放流行事会場の司会台は、株式会社丸松銘木店（能代市）に協賛いただき、同社が開発したツキ板編み込み化粧板 Almajiro（アルマジロ）の亀甲文様を使用しています。



「放流行事会場の司会台」

天皇皇后両陛下におしぼりをお渡しするために用いるおしぼり受けとお盆は、国指定の伝統工芸品である大館曲げわっぱを活用したものを用意しました。



「お盆」

## (2) 式典行事会場

放流魚のお手渡し容器は、「大館曲げわっぱ」

の技術を活用し、天然秋田杉を使って制作しました。



「お手渡し容器」

式典会場の司会台は、本荘由利森林組合が秋田杉を用いて製作し、農林中央金庫、秋田県漁業協同組合、秋田県森林組合連合会より寄贈いただきました。



「式典会場の司会台」

天皇皇后両陛下におしぼりをお渡しするために用いるおしぼり受けとお盆は、ヤマザクラの樹皮を用いた秋田の伝統工芸品である樺細工を活用したものを用意しました。

## 2 おもてなしコーナー

おもてなしコーナーでは、本県の食文化を紹介するための試食や試飲と、今大会で使用した木材加工技術や伝統工芸品の展示を行い、本県の魅力を広く発信しました。

### (1) 試食・試飲

- ・あめこうじ甘酒・ぎばさしよつるボン酢
- ・しよつるスープ・もろこし・いぶりがっこ
- ・白神山水・ポカリスエット
- ・男鹿海洋高校かまぼこ

### (2) 主な展示

- ・曲げわっぱ工芸品・樺細工工芸品
- ・Almajiro（アルマジロ）・円筒 LVL
- ・放流容器、お手渡し容器
- ・男鹿海洋高校の取組紹介など





樺細工で制作したメダル（モーグルワールドカップ）



「秋田港クルーズ列車」

### 3 地魚の普及、啓発

#### (1) 地魚バーベキュー

地魚の普及啓発を図るため、魚の味が最もわかるといわれている地魚バーベキューを秋田駅前を除く各関連行事会場で実施しました。

#### (2) 地魚加工品の開発・試験販売

秋田の地魚の消費拡大や普及啓発を目指す漁協や食品加工事業者団体などで構成する秋田の地魚消費拡大協議会が、海づくり大会にあわせて新商品を開発し、関連行事会場で試験販売しました。

#### (3) 「秋田のさかなを食べようキャンペーン」

9月1日～30日までの間、本県と包括連携協定を締結している県内87店舗の小売店等において、季節の魚介と各食品メーカーの商品を使用した様々な魚介レシピや、秋田の伝統的な調味料「しょつつる」を活用した魚介レシピを配布する「秋田のさかなを食べようキャンペーン」を開催しました。また、関連行事会場でもレシピを紹介し、地魚と本県魚食文化の普及啓発を図りました。

### 4 農林・科学技術関連行事の開催

水産関係の関連行事だけでなく、農林関係のイベントも開催することで、本県の食文化や木材の魅力を発信しました。

また、海洋環境や深海などの科学技術関連について、最先端の研究者等を招聘した講演会や映像、展示による紹介を実施し、未来を担う本県の子供たちへの海洋研究の理解促進を図りました。

### 5 秋田市関連行事会場間のクルーズ列車の運行

JR東日本秋田支社で、旅客クルーズ船の入港にあわせて秋田港に隣接する秋田港駅より運行している「秋田港クルーズ列車」を、運行していただきました。これにより、関連行事会場の秋田駅前（農林業、科学技術エリア）と道の駅秋田港（魚エリア）を連結することができました。また秋田港駅では竿燈も披露されました。

### 6 秋田の魚介の観光PR

秋田では、朝取り水産物の販売や、新鮮な地魚等を活用した食事を提供する施設等が増えてきており、そういった施設等をつなぐモデルコース「あきた地魚街道」を設定し、県内向けには地元の新聞に掲載し、国内向けには、大会に合わせた9月にJAL機内誌に掲載しPRしました。

### 六. おわりに

あきた大会では、地元のメディアにより大会に合わせて、漁業にまつわる様々な課題や解決の糸口になるような新たな取組み、地魚や魚食文化、地魚を購入したり食べられるお店の紹介など、様々な切り口で番組等の制作や特集記事を連載していただきました。

また、各スーパー等の小売店では「秋田のさかなを食べようキャンペーン」の実施や、キャンペーンのチラシへの掲載、地魚の取扱いなどを行っていただきました。

さらには、大会時の「秋田港クルーズ列車」の運行や、「海洋フォーラム」等の開催、「豊かな海は豊かな森が育む」をコンセプトにした本県木材加工技術の活用など、水産業のみならず、観光や科学技術、木材加工など、幅広い分野の方々にもご協力いただきました。

このように大会前から応援していただいた皆様のご尽力と、本大会の開催により、本県水産業への注目度は格段に高まったものと考えております。

今大会に関わっていただきましたすべての皆様にご協力いただきまして誠にありがとうございます。

この機会を逃さずに、水産業の更なる振興と環境保全、豊かな海づくりを推進してまいります。

なお、大会の様子はYouTubeで公開しております。是非御覧いただければ幸いです。



## 天皇陛下のおことば

第39回全国豊かな海づくり大会が、日本海に面したここ秋田県で開催されることを喜ばしく思います。

四方を海に囲まれたわが国は、古くから豊かな海の恵みを受けてきました。また、山や森から河川や湖を経て海へ至る自然環境と、そこに育まれる生命や文化は、私たちにさまざまな恩恵をもたらしてくれま

す。私自身、以前に鳥海山に登った折に、鳥海山の雪解け水がブナ林を養い育て、伏流水となって山ろくの田畑を潤し、やがて日本海に注いで良質な岩ガキを育てていると聞き、山と海、そして人間との大切なつながりを感じたことを思い出します。

このような豊かな海

の環境を保全するとともに、水産資源を保護・管理し、海の恵みと美しさを次世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた大切な使命であると考えます。このたび、初めて全国豊かな海づくり大会に臨み、本大会が、海などの環境保全や漁業の振興、さらには海に関わる文化の継承に果たしてきた役割と意義に思いを致し、大会に携わってこられた多くの関係者の努力に深く敬意を表します。

ここ秋田県においても、特産のハタハタの産卵場所となる藻場を作ったり、マダイやトラフグなどの稚魚を保護し育てるなどの「つくり育てる漁業」を奨励する一方、「しょっつる」など海産物を使った食文化の伝承にも積極的に取り組み、漁村や水産業の振興に努められていると聞き心強く思います。

本日表彰を受けられる方々をはじめ、全国各地において日頃から豊かな海づくりに尽力されている皆さんの活動が、今後も多くの人々によって支えられ、さらに発展していくことを期待します。

「海づくり つながる未来 豊かな地域」をテーマとして行われるこの大会を契機として、海や漁業への理解と関心がさらに深まり、豊かな海づくりの輪が、ここ秋田の地から全国へ、そして未来に向けて大きく広がっていくことを願い、私のあいさつといたします。

## 大会決議

我が国は四方を海に囲まれ、人々は古来より海と親しみ、豊かな恵み

を享受してきた。ここ秋田県は、世界自然遺産の白神山地など雄大な山々を有し、そこから流れ出る清冽な水がやがて日本海へと注ぎ、米どころ秋田を支える肥沃な大地を形成し、豊かな歴史と食文化を培い、地域産業の発展に重要な役割を担ってきた。

我々水産関係者には、水産資源を守り育てつ、安全で美味しい水産食料を安定的に食卓へ

提供し、併せて環境・生態系保全の取組により、豊かな海を永続的に育む責務がある。

新たな令和の時代を迎え、ここ秋田県において、「海づくり つながる未来 豊かな地域」をテーマに、豊穡の海を次世代に引き継ぎ、水産業の振興に向けた取組を一層力強く進めていくことをここに決議する。

令和元年9月8日

第39回全国豊かな海づくり大会

秋田県農林水産部水産漁港課 全国豊かな海づくり大会推進室